



**国際石油開発帝石株式会社  
2019年12月期  
決算説明会 2020年2月13日**

- **事業活動報告**
- **中期経営計画2018-2022の進捗、今期見通し**
- **2019年12月期 決算説明**
- **2020年12月期 業績予想**

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

# 事業活動報告

---

代表取締役社長  
上田 隆之



<p><b>ネット生産量</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2019年12月期 日量約58.6万バレル*(原油換算) (2019年3月期(2018年4月-12月)比約51%増) *当社の年度平均ネット生産量と比較し、過去最高</li> </ul>
<p><b>決算</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>決算:2019年12月期 (2019年4月～2019年12月(9ヶ月決算))</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 連結売上高10,000億円(2019年3月期調整後実績値と比較し25.0%増)</li> <li>● 親会社株主に帰属する純利益1,235億円(2019年3月期調整後実績値と比較し136.1%増)</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>業績予想</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>業績予想:2020年12月期(2020年1月～2020年12月:12ヶ月決算)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 連結売上高 12,040億円</li> <li>● 親会社株主に帰属する純利益 1,450億円</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>1株当たり 配当金</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>2019年12月期(実績)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間:30円(中間:12円、期末:18円(直近予想15円から3円増配))</li> </ul> </li> <li>■ <u>2020年12月期(予想)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間:36円(中間:18円、期末18円)</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>プロジェクト ハイライト</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>イクシスLNGプロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 順調な生産を継続している状況</li> </ul> </li> <li>■ <u>アバディLNGプロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画の承認を取得</li> <li>● PSCの期限を2055年とする延長契約締結</li> </ul> </li> <li>■ <u>アブダビ油田プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存油田の生産能力増強に向け開発作業が進行中</li> </ul> </li> </ul>

注:「調整後実績値」等に係る決算期の概要説明については、スライドのP19をご参照。

- アゼルバイジャン共和国 カスピ海ACG鉱区における追加開発の最終投資決定(4月)
- オーストラリア プレリユードFLNGプロジェクト 液化天然ガス(LNG)の出荷開始(6月)
- オーストラリア北西大陸棚 探鉱鉱区(AC/P66)の落札(7月)
- 米国メキシコ湾キースリーキャニオン921/965、ウォーカーリッジ 881/925鉱区 権益の取得(7月)
- インドネシア共和国 アバディLNGプロジェクトにおいて、改定開発計画(POD)を本年6月にインドネシア政府当局へ提出し、7月に承認を取得。また、生産分与契約(PSC)期間延長等にかかる調印式実施(10月)
- ブラジル連邦共和国 フラージ鉱区の権益売却(10月)
- CO<sub>2</sub>を有効活用するメタン合成試験設備の完成、試運転開始(10月)
- アラブ首長国連邦アブダビ首長国におけるマーバン原油取引市場への参画(11月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト累計100隻目のLNGカーゴの出荷(11月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト 財務的完工の達成について(12月)

## ■ プロジェクトファイナンスの完工保証終了

- 2019年12月20日付でプロジェクトファイナンス契約上の財務的完工を達成し、完工保証が終了

## ■ 生産状況

- 順調な生産を継続している状況

## ■ 出荷カーゴ数

- LNGカーゴ(2018年10月の初出荷時から2020年1月31日時点までの累計):126カーゴ
- LNGカーゴ(2019年1月~12月):104カーゴ

	2018年10月~2019年3月	2019年4月~2019年12月	2020年1月	2020年1月末までの累計
LNG	31	84	11	126
陸上コンデンセート	4	16	2	22
海上コンデンセート	10	23	3	36
LPG	6	23	3	32

- 今期は、月10LNGカーゴ程度の出荷を見込む

## ■ 生産井の掘削状況・見通し

- 18坑の掘削作業・仕上げ作業を完了
- 2020年は引き続き、掘削作業を継続

## ■ OPEX(操業費)

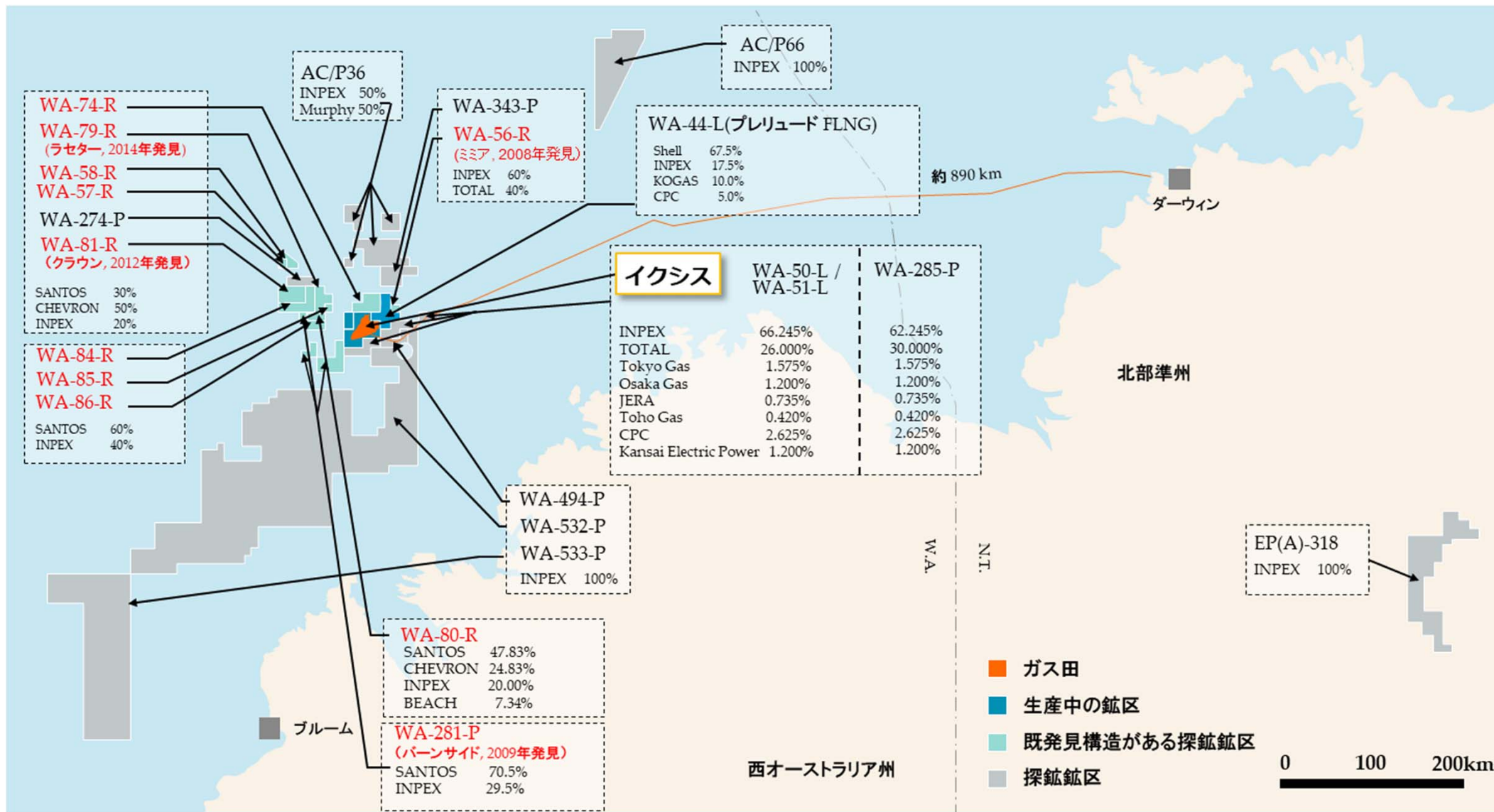
- プラトー生産時の生産コストは、当社全体の足元の生産コストと同程度の水準を見込む

## ■ メンテナンス計画

- 2020年度は、大規模なメンテナンスの予定なし



イクシス ガス・コンデンセート田のFPSO



- イクシスLNGプロジェクト周辺には20の探鉱鉦区を保有。これまでに、クラウン、ラセター、ミア、バーンサイド等のガス構造を発見し、これらのガス構造は少なくとも11鉦区に亘る
- 従前よりダーウィンに複数の追加トレインが建設可能な用地確保済
- 2020年にWA-343-P鉦区にて試掘井1坑を掘削予定。また、WA-533-P及びWA-532-P鉦区において2D震探の収録作業を実施予定



## ■ 生産規模:

- 天然ガス総生産量(LNG 換算) 年産 1,050 万トン
  - LNG年産 950万トン規模
  - 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス供給を予定
- コンデンセート日量最大約 3.5 万バレル規模

## ■ 契約期間:

- 1998年11月16日～2055年11月15日  
(2019年10月、生産分与契約(PSC) 期限2028年を2055年とするPSC 延長契約等を締結)

## ■ 現況

- 2019年6月、陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画 (POD)をインドネシア政府当局へ提出し、7月に承認を取得
- 現在、2020年代後半の生産開始を目指し、基本設計(FEED)作業開始の準備中
- イクシスで獲得した知見・経験を活かした効率的な開発を推進
- 2017年6月にインドネシア政府からNational Strategic Projectに、同年9月にはPriority Infrastructure Projectに認定

## ■ 今後の予定

- 早期のFEED作業開始を目指し、準備を継続
- FEED作業は、1年～2年の期間を要する見込み

## ■ 十分な経済性を有するプロジェクト

- 契約期間を2055年まで確保済
- アバディガス田は世界有数の良好なガス田性状を有し、効率的な生産が可能
- 年産950万トン規模のLNG、及びパイプラインガスを20年以上にわたって供給可能な埋蔵量を確認済
- 十分な財務条件(間接税の免除、インベストメントクレジット、税引後利益配分比率といった3つの経済的インセンティブ)を確保済



アバディLNGプロジェクト 開発コンセプト

## アブダビ陸上鉱区 (生産中:アブダビ首長国)



- 目標生産能力
- 日量約200万バレル

- 進捗
- 2018年末までに目標生産能力日量約180万バレルを達成し、2020年末までに生産能力を日量200万バレルへと引き上げるべく、開発作業中

## アブダビ海上油田 (生産中:アブダビ首長国) (上部ザクム油田・下部ザクム油田・サター油田・ウムアダルク油田)



- 目標生産能力
- 上部ザクム油田:日量約100万バレル
- 下部ザクム油田:日量約45万バレル
- サター油田:日量約2.5万バレル
- ウムアダルク油田:日量約2万バレル

- 進捗
- 4つの油田の生産能力を合計で日量約150万バレルに引き上げるべく、開発作業中
- 下部ザクム油田においては、アセットリーダーとしてADNOC(アブダビ国営石油会社)及びパートナー各社と密接に連携し、主導的な立場で開発作業中

## カシャガン油田 (生産中:カザフスタン)

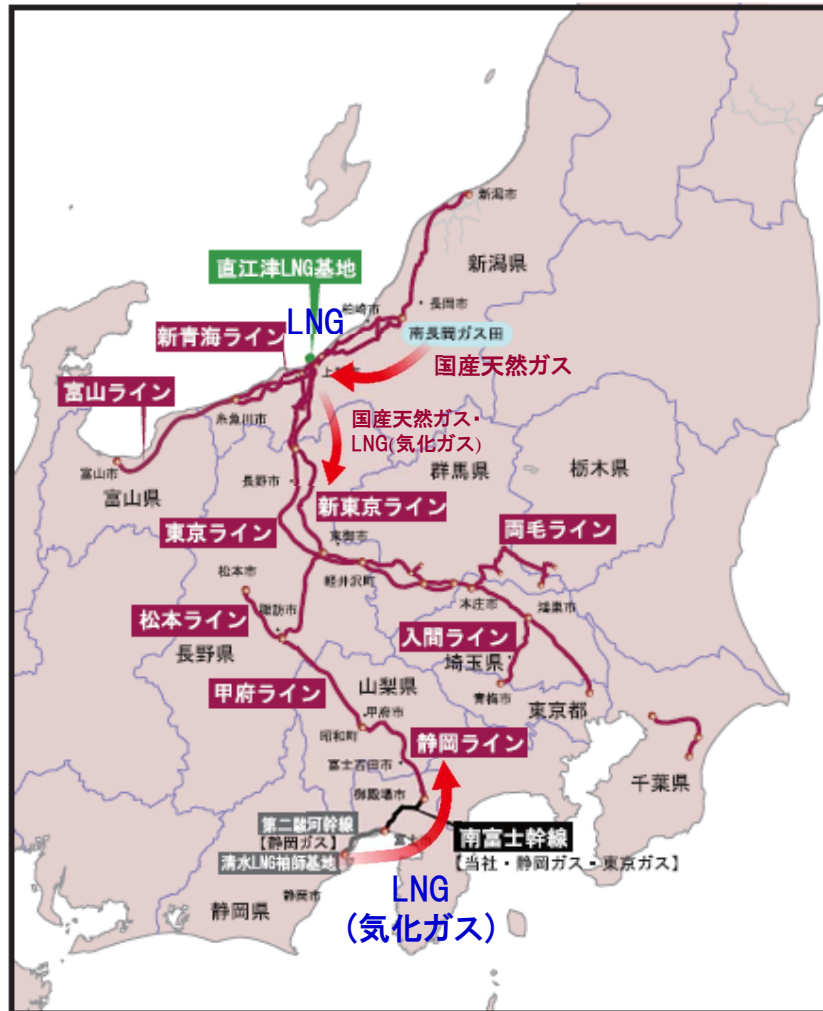


- 進捗
- 日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中

## ACG油田 (生産中:アゼルバイジャン)



- 進捗
- 2019年12月、累計生産量500百万トン(37億バレル)を達成



当社パイプラインネットワーク  
総延長約1,500キロメートル



直江津LNG基地

- 天然ガス販売
  - 2019年3月期販売量:21.7億m3\*
  - 2019年12月期販売量(9ヶ月決算):15.1億m3\*
  - 2020年12月期(12ヶ月決算)販売量見通し:22.3億m3\*
- 直江津LNG基地
  - 2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
  - 2016年6月、富山ライン完成
  - 2018年10月、イクシスの第1船(パシフィック・ブリーズ)が入港
  - 2019年2月、イクシスからオセアニック・ブリーズが初入港

\* 1m<sup>3</sup>当たり41.8605MJ換算

## 再生可能エネルギー事業



インドネシア サルース地熱IPP事業

- インドネシア サルース地熱IPP事業
- 2018年5月から総定格出力約 330MWで商業運転中



秋田県小安地域 地熱開発

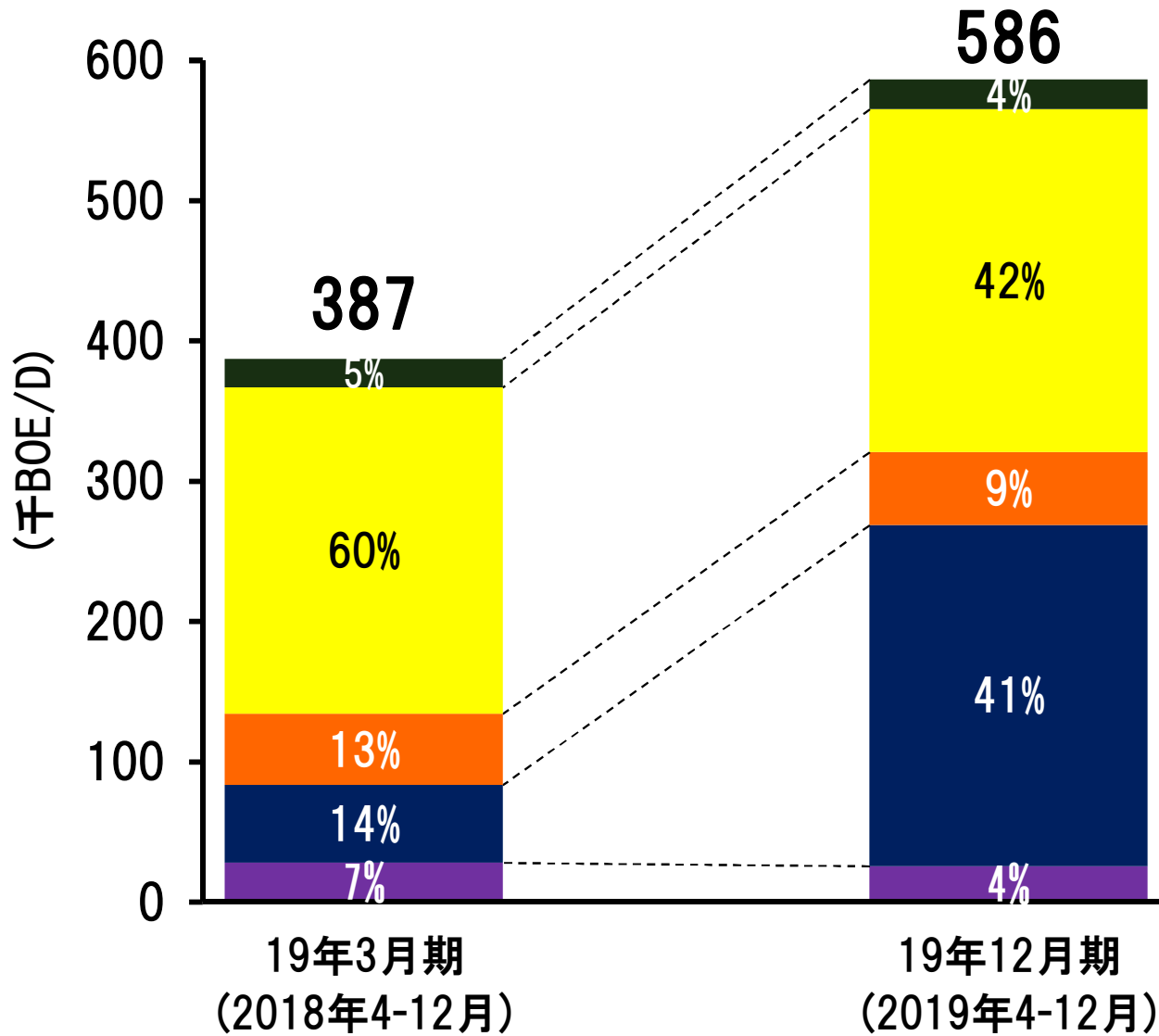
- 国内地熱事業
- 秋田県湯沢市小安地域での地熱発電所建設へ向けた環境アセスメントの継続実施中。
- 同地域にて、系統連携(発電する電気の一般送配電事業者への送電・配電)関連諸契約の締結に向けた手続きを開始。2020年に一斉噴気試験実施を予定。

## CO2有効利用技術開発事業



メタネーション試験設備

- メタネーション
- NEDOのCO2有効利用技術開発事業として、CO2と水素からメタンを合成する試験設備を当社長岡鉱場の越路原プラント敷地内において完成・試運転開始



### 主な増加要因

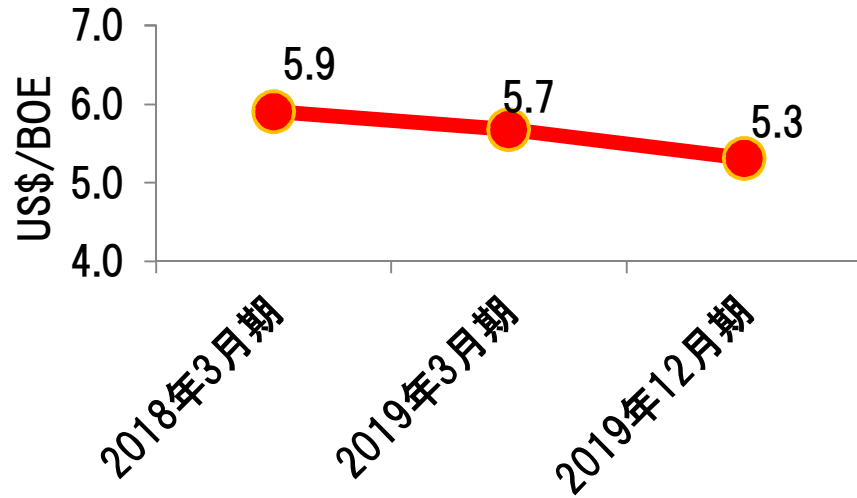
- イクシスプロジェクトのランプアップ
- プレリウドプロジェクト生産開始
- シェールオイル生産・開発権益の取得

■ 日本 ■ アジア/オセアニア ■ ユーラシア ■ 中東・アフリカ ■ 米州

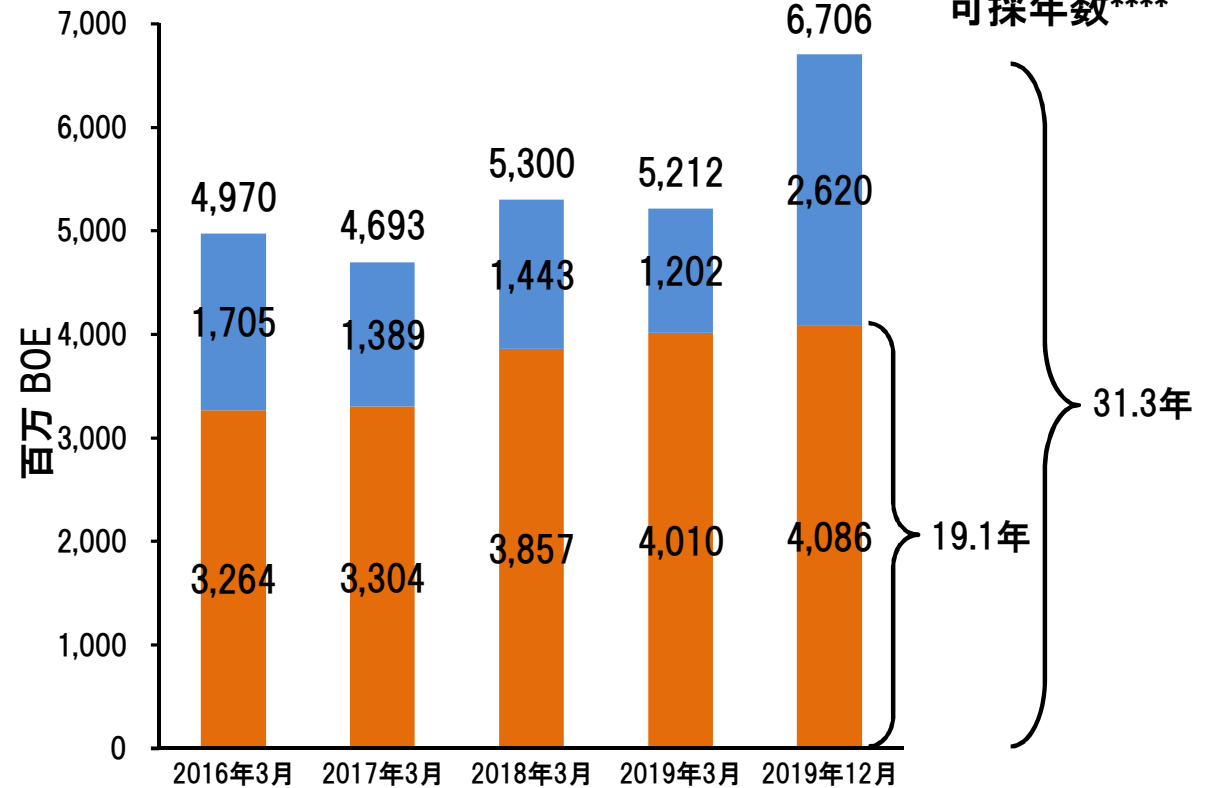
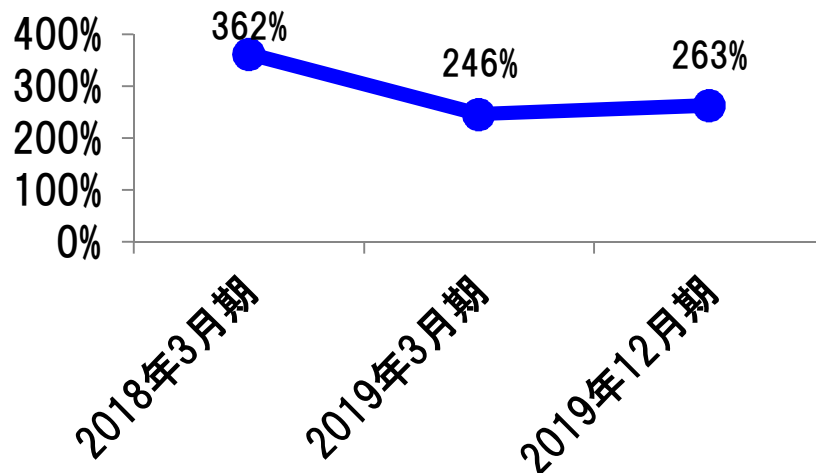
\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

# 生産コスト、生産量・埋蔵量指標、埋蔵量の推移

原油換算1バレル当たりの生産コスト(ロイヤリティ除く)



リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)\*\*\*\*\*



■ 確認埋蔵量\*\* ■ 推定埋蔵量\*\*\*

\* 埋蔵量は、持分法適用関連会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。

\*\* 確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。確率論的手法を用いて確認埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量(1P)を回収できる確率が90%以上であることが必要とされています。

\*\*\* 推定埋蔵量は、石油技術者協会(SPE)などが策定した基準であるPetroleum Resources Management System(PRMS)に従い、評価・算定しています。確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています。推定埋蔵量の全量が確認埋蔵量と同様な確実性をもって開発・生産されると見込まれるわけではありません。

\*\*\*\* 可採年数=2019年12月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2019年12月期生産量実績

\*\*\*\*\* リザーブリプレースメントレシオ=期中の確認埋蔵量増加分/期中生産量

**中期経営計画2018-2022の進捗、今期見通し**

---

**代表取締役社長**

**上田 隆之**



	2019年3月期～2019年12月期の実績 (中期経営計画1年目～2年目までの実績)	2020年12月期の取組み・見通し (中期経営計画3年目)
石油・天然ガス 上流事業の持続 的拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イクシス:迅速かつ着実なランプアップ</li> <li>■ アバディ:改定開発計画の承認取得・契約期間の延長</li> <li>■ アブダビ:生産能力の増強に向けた作業を継続</li> <li>■ ACG油田:追加開発に係る最終投資決定</li> <li>■ プレリュード:LNG出荷開始</li> <li>■ 探鉱活動:アブダビ、イラク、ノルウェー、メキシコ湾等における探鉱活動の推進と優先探鉱エリアにおけるスタディの継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イクシス:安定操業の継続</li> <li>■ アバディ:FEEDIに向けた準備作業</li> <li>■ アブダビ:生産能力の増強に向けた作業を継続</li> <li>■ 探鉱活動:アブダビ、イラク、ノルウェー、メキシコ湾等における探鉱活動の推進と優先探鉱エリアにおけるスタディの継続</li> </ul>
グローバルガスバ リューチェーンの 構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内:天然ガス販売量:15.1億m<sup>3</sup>(9ヶ月)</li> <li>■ 海外:アバディのFIDのためのマーケティング、天然ガス需要創出のための事業具体化に向けた取り組みを継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内:天然ガス販売量見通し:22.3億m<sup>3</sup>(12ヶ月)</li> <li>■ 海外:アバディのFIDのためのマーケティング、天然ガス需要創出のための事業具体化に向けた取り組みを継続</li> </ul>
再生可能エネル ギーの 取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 秋田県湯沢市小安地域での環境アセスメントの開始</li> <li>■ NEDOのCO<sub>2</sub>有効利用技術開発事業として、メタネーションの実証試験を実施</li> <li>■ 国内の風力発電事業への参入に向けて検討を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地熱発電事業の推進、風力発電事業への積極的な参入</li> <li>■ 再生可能エネルギー関連技術の研究・開発の強化</li> </ul>



	2019年3月期の実績 2018年4月～2019年3月 :12か月決算	2019年12月期の実績 2019年4月～2019年12月 :9ヶ月決算	2020年12月期の見通し 2020年1月～2020年12月 :12ヶ月決算	2022年12月期の目標 (中期経営計画最終年度)
原油価格・為替 前提	70.86ドル・110.93円/ドル	64.27ドル・108.66円/ドル	60ドル・110円/ドル	60ドル・110円/ドル
売上高	9,713億円	10,000億円	1兆2,040億円	1兆3,000億円程度
親会社株主に帰 属する当期純利 益	961億円	1,235億円	1,450億円	1,500億円程度
ネット生産量	日量42.4万バレル (原油換算)	日量58.6万バレル (原油換算)	日量60.8万バレル (原油換算)	日量70万バレル (原油換算)

	2019年3月期の実績 2018年4月～2019年3月 :12か月決算	2019年12月期の実績 2019年4月～2019年12月 :9ヶ月決算	2020年12月期の見通し 2020年1月～2020年12月 :12ヶ月決算	2022年12月期の目標 (中期経営計画最終年度)
開発投資額等	4,710億円	2,217億円	2,680億円	1兆7,000億円 (5年間累計ガイダンス)
探鉱投資額	137億円	188億円	300億円	
その他	37億円	27億円	30億円	
成長投資 (合計)	4,884億円	2,432億円	3,010億円	
		3年間累計:10,326億円		

	2019年3月期の実績 2018年4月～2019年3月 :12か月決算	2019年12月期の実績 2019年4月～2019年12月 :9ヶ月決算	2020年12月期の見通し 2020年1月～2020年12月 :12ヶ月決算	中期経営計画期間中の 株主還元方針
配当性向	36.5%	35.5%	36.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1株24円を下回らないよう安定的に配当を実施</li> <li>■ 業績の成長に応じて段階的に1株あたりの配当金を引き上げて、株主還元を強化</li> <li>■ 配当性向30%以上</li> </ul>
中間配当	9円	12円	18円	
期末配当	15円 (普通配当9円、記念配当6円)	18円 (直近予想15円から3円増配)	18円	
1株あたりの配 当金 (中間+期末合計)	24円	30円	36円	

# 2019年12月期 決算説明

---

取締役

副社長執行役員

財務・経理本部長 村山昌博



# 決算期(事業年度の末日)の概要説明

- 決算期を3月31日から12月31日に変更。
- 決算期変更の経過期間となる2019年12月期(2019年度)は、2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月決算となる。
- 2019年12月期と比較するため、9ヶ月に調整した2019年3月期の数値を「2019年3月期調整後実績値」、2020年12月期と比較するため、12か月に調整した2019年12月期の数値を「2019年12月期調整後実績値」とする。財務報告数値(決算短信等に記載の数値)、調整後実績値<sup>(注1)</sup>の対象は以下の通り。

## <財務報告数値(決算短信等に記載の数値)>

	2018年				2019年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および仮決算子会社等 <sup>(注2)</sup>		2019年3月期			2019年12月期			
12月決算子会社 <sup>(注3)</sup>		(2018年度)			(2019年度)			

## <2019年12月期と比較する2019年3月期調整後実績値<sup>(注1)</sup>>

	2018年				2019年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および仮決算子会社等 <sup>(注2)</sup>		2019年3月期				2019年12月期		
12月決算子会社 <sup>(注3)</sup>		調整後実績値				(2019年度)		

## <2020年12月期と比較する2019年12月期調整後実績値<sup>(注1)</sup>>

	2019年				2020年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および旧仮決算子会社等	2019年12月期				2020年12月期			
旧12月決算子会社	調整後実績値				(2020年度)			

(注1) 調整後実績値は、監査法人による監査は受けておらず、比較のための参考値。

(注2) 当社、主な国内連結子会社、海外プロジェクトの仮決算子会社。仮決算子会社とは決算日は12月31日であるが、連結決算に与える影響が相対的に大きいため、3月31日に組み替えて決算を行った子会社。

(注3) 決算日が12月31日の子会社。2019年12月期は9ヵ月決算であるが、12月決算子会社の決算は2019年1~12月の12ヵ月分が連結される。仮決算子会社、12月決算子会社の具体例は参考データ集P.1「連結子会社および持分法適用関連会社」ご参照。

	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率
売上高 (億円)	8,001	10,000	1,998	25.0%
原油売上高	6,751	7,640	888	13.2%
天然ガス売上高(LPG含む)	1,127	2,230	1,103	97.8%
その他	122	128	6	5.0%
営業利益 (億円)	4,136	4,986	849	20.5%
経常利益 (億円)	4,456	5,110	654	14.7%
親会社株主に帰属する 純利益 (億円)	523	1,235	712	136.1%
1株当たり純利益 (円)	35.84	84.61	48.77	136.1%

期中平均株式数(連結)2019年12月期 1,460,200,987株

期中平均油価(Brent) (\$/bbl)	73.13	64.27	△ 8.86	△ 12.1%
期中平均為替 (¥/\$)	111.15	108.66	2円49銭円高	2.2%円高

	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率
売上高 (億円)	6,751	7,640	888	13.2%

販売量 (千bbl)	85,138	106,950	21,812	25.6%
海外平均単価 (\$/bbl)	71.56	65.61	△ 5.95	△ 8.3%
国内平均単価 (¥/kl)	54,273	45,936	△ 8,337	△ 15.4%
平均為替 (¥/\$)	110.76	108.88	1円88銭円高	1.7%円高

地域別販売量 (千bbl)	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率
日本	589 (93.6千kl)	499 (79.4千kl)	△ 89 (△14.2千kl)	△ 15.1%
アジア・オセアニア	3,278	14,008	10,730	327.3%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	11,167	11,272	105	0.9%
中東・アフリカ	69,175	79,147	9,972	14.4%
米州	930	2,024	1,094	117.7%
合計	85,138	106,950	21,812	25.6%

	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率
売上高(億円)	1,115	2,199	1,084	97.2%

販売量(百万cf)	157,925	345,182	187,257	118.6%
海外生産分平均単価(\$/千cf)	2.94	4.45	1.51	51.4%
国内分平均単価(¥/m <sup>3</sup> )	51.65	53.27	1.62	3.1%
平均為替(¥/\$)	109.85	108.63	1円22銭円高	1.1%円高

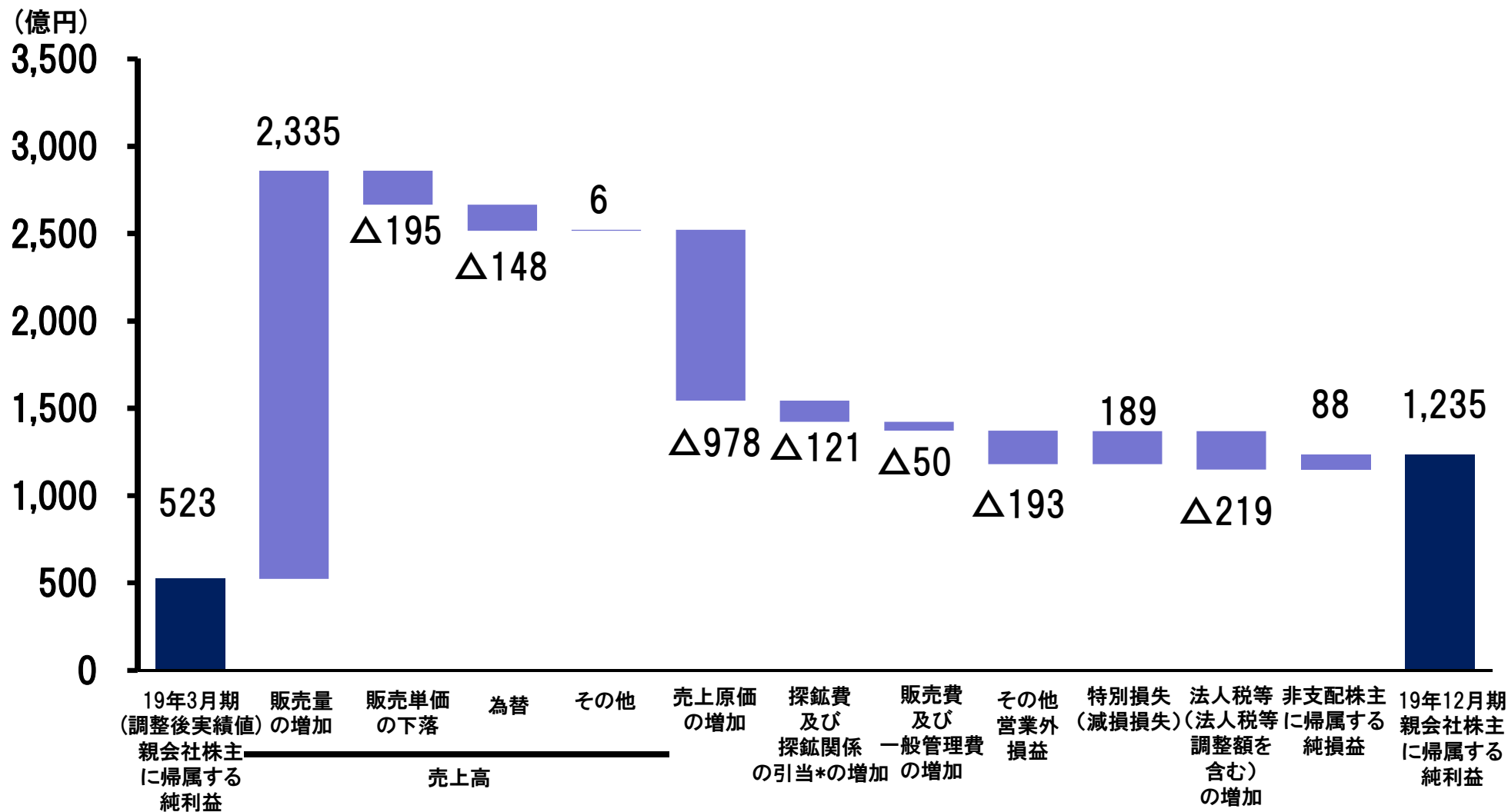
地域別販売量(百万cf)	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率
日本	57,097 (1,530百万m <sup>3</sup> *)	56,242 (1,507百万m <sup>3</sup> *)	△ 855 (△23百万m <sup>3</sup> *)	△ 1.5%
アジア・オセアニア	58,181	262,903	204,723	351.9%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	7,424	6,720	△ 704	△ 9.5%
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	35,223	19,317	△ 15,906	△ 45.2%
合計	157,925	345,182	187,257	118.6%

\*1m<sup>3</sup>当たり41.8605MJ

(億円)	19年3月期 (調整後実績値)	19年12月期 (2019年4月-12月)	増減	増減率	
売上高	8,001	10,000	1,998	25.0%	販売量の増加 +2,335 販売単価の下落 △195 為替 △148 その他 +6
売上原価	3,268	4,247	978	29.9%	原油売上原価: 2,977 (増減) +460 天然ガス売上原価(注): 1,173 (増減) +510 (注)LPGを含む。
売上総利益	4,733	5,753	1,019	21.5%	
探鉱費	35	154	119	338.5%	
販売費及び一般管理費	561	612	50	9.1%	
営業利益	4,136	4,986	849	20.5%	
営業外収益	523	447	△ 75	△ 14.4%	主な要因 受取補償金 (増減△75) 持分法による投資利益 (増減+83)
営業外費用	203	323	120	59.2%	受取利息 (増減△44)
経常利益	4,456	5,110	654	14.7%	
特別損失(減損損失)	197	7	△ 189	△ 96.0%	
法人税等合計	3,637	3,857	219	6.0%	主な要因 支払利息 (増減+104)
非支配株主に帰属する純損益	98	10	△ 88	△ 89.7%	
親会社株主に帰属する純利益	523	1,235	712	136.1%	



# 2019年12月期 純利益 増減要因分析



\*生産物回収勘定引当金繰入額

(億円)	19年3月期末	19年12月期末	増減	増減率
流動資産	4,577	4,198	△ 379	△ 8.3%
有形固定資産	22,789	22,753	△ 36	△ 0.2%
無形固定資産	5,202	5,353	151	2.9%
生産物回収勘定	5,680	5,683	3	0.1%
その他	10,385	11,180	794	7.6%
生産物回収勘定引当金	△ 700	△ 668	31	△ 4.5%
<b>資産合計</b>	<b>47,935</b>	<b>48,499</b>	<b>564</b>	<b>1.2%</b>
流動負債	3,720	4,014	294	7.9%
固定負債	11,639	11,513	△ 126	△ 1.1%
純資産	32,575	32,971	395	1.2%
(うち非支配株主持分)	2,511	2,564	52	2.1%
<b>負債・純資産合計</b>	<b>47,935</b>	<b>48,499</b>	<b>564</b>	<b>1.2%</b>
1株当たり純資産額 (円)	2,058.95	2,082.43	23.48	1.1%

イクシス下流事業会社(持分法適用)の要約財務情報(100%ベース、内当社株式比率は66.245%)

・流動資産	1,304億円
・固定資産	3兆7,200億円
・総資産	3兆8,504億円

※固定資産にはFID前投資、借入金の支払利息分等が含まれる

うち、長期・短期借入金の合計1.1兆円。  
これに、オフバランスのイクシス下流事業会社分を加えた当社のネット借入金概算(19年12月末)は約2.3兆円。

株主資本合計	+849億円
その他の包括利益累計額	△506億円
・繰延ヘッジ損益	△244億円
・為替換算調整勘定	△288億円

(億円)	19年12月期	(ご参考) 19年3月期
税金等調整前当期純利益	5,102	4,940
減価償却費	1,356	1,068
減損損失	7	252
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	322	331
生産物回収勘定(非資本支出)の増減額(△は増加)	△ 54	46
法人税等の支払額	△ 3,374	△ 3,880
その他	△ 613	△ 372
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,747</b>	<b>2,385</b>
有形固定資産の取得による支出	△ 1,097	△ 2,107
投資有価証券の取得による支出/売却による収入	21	△ 1,047
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△ 366	△ 316
長期貸付けによる支出/回収による収入	△ 1,084	△ 2,624
権益取得による支出	△ 358	△ 1,078
その他	△ 1	353
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 2,887</b>	<b>△ 6,820</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 486</b>	<b>4,051</b>
現金及び現金同等物の期末残高	1,737	2,396

## 2020年12月期 業績予想

---

**取締役**

**副社長執行役員**

**財務・経理本部長 村山昌博**



前提	上期(1-6月)	下期(7-12月)	通期
Brent 油価(\$/bbl)	60.0	60.0	60.0
為替レート(円/US\$)	110.0	110.0	110.0

通期	2019年12月期 (実績)		2019年12月期 (調整後実績※)	2020年12月期 (予想)	増減	増減率
売上高 (億円)	10,000	➔	11,712	12,040	328	2.8%
営業利益 (億円)	4,986		5,592	4,990	△602	△10.8%
経常利益 (億円)	5,110		5,846	5,360	△486	△8.3%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	1,235		1,673	1,450	△223	△13.3%

## 第2四半期累計

売上高 (億円)	5,752	➔	5,631	6,060	429	7.6%
営業利益 (億円)	2,807		2,691	2,570	△121	△4.5%
経常利益 (億円)	2,711		2,707	2,720	13	0.5%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	694		824	700	△124	△15.1%

1株当たり配当金(円)	第2四半期末	12.0	18.0
	期末	18.0	18.0
	年間	30.0	36.0

※2019年度(2019年12月期)は変則決算のため、2019年度(2019年12月期)を同一期間(12ヶ月)に調整(第2四半期累計は2019年1月～6月の期間に調整)。詳細はP.19ご参照。2020年12月期の配当基準日は、中間配当が2020年6月末、期末配当が2020年12月末。

# 2020年12月期(12ヶ月決算) 販売量・投資額(予想)

		2019年12月期 (実績)		2019年12月期 (調整後実績※)	2020年12月期 (予想)	増減	増減率
販売量	原油 (千bbl) <sup>1</sup>	106,950	➔	122,315	128,712	6,397	5.2%
	天然ガス (百万cf) <sup>2</sup>	345,182		420,109	493,815	73,707	17.5%
	うち海外分	288,940		340,034	410,601	70,568	20.8%
	うち国内分	56,242 (1,507百万m <sup>3</sup> )		80,075 (2,145百万m <sup>3</sup> )	83,214 (2,229百万m <sup>3</sup> )	3,139 (84百万m <sup>3</sup> )	3.9%
	LPG (千bbl) <sup>3</sup>	412		412	570	158	38.3%
		2019年12月期 (実績)		2019年12月期 (調整後実績※)	2020年12月期 (予想)	増減	増減率
開発投資額等 <sup>4</sup> (億円)		2,217	➔	3,222	2,680	△542	△16.8%
探鉱投資額 (億円)		188		260	300	40	15.4%
その他 (億円)		27		35	30	△5	△14.3%
探鉱費および 探鉱関連引当額 <sup>5</sup> (億円)		探鉱費 154 探鉱関連引当額 31 185		探鉱費 235 探鉱関連引当額 19 255	探鉱費 255 探鉱関連引当額 45 301	46	18.0%
うち非支配株主持分負担額 <sup>6</sup> (億円)		30		33	79	46	139.4%

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29bblを使用  
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m<sup>3</sup>=37.32cfを使用  
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5bblを使用  
 4 開発投資額にはイクシス下流事業、権益取得支出を含む  
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額のうち探鉱関連分  
 6 非支配株主による増資見合い分等

※2019年度(2019年12月期)は変則決算のため、2019年度(2019年12月期)を同一期間(12ヶ月)に調整。詳細はP.19ご参照。

## ■ 油価・為替変動の2020年12月期 親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額 (注1)

油価1ドル上昇(下落)した場合(注2)	<p style="text-align: center;"><b>期初時点: +65億円(△65億円)</b></p> <p style="text-align: center;">以下の通り、期中に変化します。</p> <p style="text-align: center;">第2四半期期初時点: +45億円(△45億円)</p> <p style="text-align: center;">第3四半期期初時点: +25億円(△25億円)</p> <p style="text-align: center;">第4四半期期初時点: +10億円(△10億円)</p>
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合(注3)	<p style="text-align: center;"><b>+22億円(△22億円)</b></p>

(注1) 原油価格(Brent)の期中平均価格が1ドル上昇(下落)した場合、為替が1円円安(円高)になった場合の、期初(2020年1月)時点における2020年12月期の当期純利益に対する影響額を試算したものです。当年度期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があります。加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

(注2) 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格(Brent)の期中平均価格の影響を受けます。尚、各四半期期初時点において、販売価格の一部は確定済のため、当該販売価格の確定割合を考慮し、下記の通り、センシティブティの四半期内訳を、試算しております。

- ✓ 第1四半期期初時点: +65億円 (第1四半期: +10億円、第2四半期: +15億円、第3四半期: +20億円、第4四半期: +20億円)
- ✓ 第2四半期期初時点: +45億円 (第1四半期: ---、第2四半期: +10億円、第3四半期: +15億円、第4四半期: +20億円)
- ✓ 第3四半期期初時点: +25億円 (第1四半期: ---、第2四半期: ---、第3四半期: +10億円、第4四半期: +15億円)
- ✓ 第4四半期期初時点: +10億円 (第1四半期: ---、第2四半期: ---、第3四半期: ---、第4四半期: +10億円)

(注3) 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。尚、外貨建て資産と外貨建て負債の差から発生する為替評価損益に係るセンシティブティ(前期末と当期末の期末為替レートの差の影響を受ける)は、ほぼ中立化しております。